

春 秋 新

記念シンポジウムなど

創立60周年記念事業を展開中！

熊本県立大学は、昭和22年に本学の前身である熊本県立女子専門学校が設置されて以来、今年で創立60周年を迎えました。これを記念し、様々な事業を進めています。既に記念シンポジウム「春・進歩」「夏・進歩」「秋・進歩」、高大連携「SUMMER COLLEGE」及び企画展示「百科事典の東西」を開催し、多くの皆様に参加いただきました。今回は、記念シンポジウムについてご紹介します。

■ 創立60周年記念シンポジウム「春夏秋冬…進歩」
“活力ある熊本と人、そこに求められる学問”を統一テーマとした、春夏秋冬の年4回、シンポジウムを開催しています。

◆「春・進歩…大学と学問」(4月28日(土)、本学大講義室)

本学への入学を志す高校生等に、様々な分野にチャレンジする本学の教員・学生の取組を紹介しました。高校生を中心に300人の参加がありました。

◆「夏・進歩…大学と人材」(6月23日(土)、本学大講義室)

(株)カッシーナ・イクスシー執行役員の森田多恵子氏を講師に、企業のトップマネジメントの立場からキャリア形成について講演をいただきました。在学生の保護者を中心に250人が参加しました。

◆「秋・進歩…大学と活力」(11月10日(土)、本学大講義室)

“世界の動向、自分の行動”をテーマに、「大学生がいかに進路を定めていくか」について考えるため、各界でご活躍の方々による講演・パネルディスカッションを行いました。本学在学生を中心に240人が参加しました。

※「冬・進歩…大学と社会」については、P16をご覧ください。



創立60周年を迎えて

学長 米澤 和彦

本学は、今年でちょうど創立60周年です。人間で言えばめでたく還暦を迎えたこととなります。現在全国に76校ある公立大学の中でも、60年の歴史と伝統を誇る大学は決して多くはありません。

ところで、この60年間に、大きく言えば3つの転換点がありました。すなわち、昭和55年の大江渡鹿の木造の校舎から現在地の月出キャンパスへの移転、平成6年の男女共学に伴う県立大学への移行、そして昨年4月の公立大学法人としての新たなスタートです。

この3つの転換点は、言わばホップ・ステップ・ジャンプの発展段階を表すものと言えましょう。まさに本学は、昨年の法人化とともにジャンプという大飛躍期にさしかかっているわけです。

「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに、大学の価値の向上と、地域に根ざしつつ世界に向かって大きく羽ばたいていく有為の人材の育成に、全力を注いでいきたいと考えております。



目次

- | | |
|-----------|---------------------|
| 2 特色ある教育 | 8・9 キャンパス・ニュース |
| 3 高大連携の取組 | 10・11 サークル便り・学生の声 |
| 4 学部トピックス | 12・13 就職支援・就職状況 |
| 5 研究室紹介 | 14 法人情報 |
| 6 地域連携 | 15 後援会便り |
| 7 国際交流 | 16 行事予定、Information |

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2007.11
VOL.27

「地域実学主義」に基づく「特色ある教育」

熊本県立大学では、教育面において「地域実学主義」を掲げ、熊本の自然や文化を理解し地域課題の解決に取り組む人材「もやいすと」を育成するとともに、現場に学び実践力を得る「フィールドワーク」や、様々な切り口で熊本を学ぶ「新熊本学」などのプログラムを用意し、熊本県土全体をキャンパスとした県立大学らしい特色ある教育を進めています。

■「もやいすと」育成プログラムを3つの地域で実施！

今年度の「もやいすと」育成プログラムには、1年生を中心に133人の参加申込がありました。

8月11日、受講者全員を対象としたキックオフミーティングを行いました。プロジェクトリーダーである古賀副学長からプログラムの説明があり、続いて、米澤学長から「もやいすと講座ーくまもとの現在・過去・未来」というテーマの講話と文学部の長嶺講師の指導で地域課題についてのディベートを行いました。受講生は、この日出された課題について事前準備をし、9月中旬から10月上旬にかけて、和水町を中心とした県北地域、阿蘇地域、水保・芦北地域の3つの地域へ、2泊3日のフィールドワークに出かけました。

現地では、1日目にそれぞれの地域の歴史や文化、まちづくりや地域の抱える課題などを学び、2日目には、和水町では里山再生活動の体験、続いて阿蘇地域では林業活動の体験、最後に水保・芦北地域ではロープワークや地引き網の体験といった野外活動も行い、充実した研修となりました。



もやいすと講座 in 和水 養茂理事
長によるイブニングセッション「環
境の時代みんなで里山再生」



もやいすと講座 in 阿蘇 林業体験



もやいすと講座 in 水保・芦北
地引き網体験

■ 社会の第一線で活躍する人に学ぶ「協力講座」がスタート

「協力講座」とは、大学と協定を締結した企業等の第一線で活躍する人たちが、講師として大学が開講する正規の科目を担当する授業です。各授業のテーマについて学ぶだけでなく、社会で求められている知識や技能とは何か、また、大学で学ぶ理論、知識が実際の社会の中でどのように役立てられるかなどキャリアデザイン教育にも視点を置いて、企業の持つ実践的知識をもとに「理論」と「実践」を学びます。

熊本県立大学では、肥後銀行及び熊本日日新聞社と協定を締結し、本年度から以下の科目について「協力講座」を実施しています。

- 肥後銀行・地域流通経済研究所
「地域流通経済論」(総合管理学部専門科目・平成19年度前期)
「現代社会と企業」(教養科目・平成19年度後期)
- 熊本日日新聞社
「マスメディア論」(教養科目・平成19年度後期)



肥後銀行 「地域流通経済論」

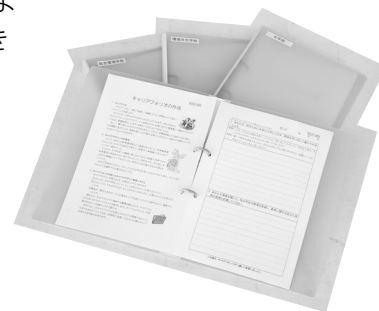


熊本日日新聞社 「マスメディア論」

■ キャリアデザイン教育システムの取組を始めました

今日、日本の社会では価値観が急速に多様化し、また終身雇用制度の崩壊などにより旧来の単純な職業観が成立しない状況にあります。若者にとっては自己の望む生き方をイメージすることが難しくなっており、大学教育においても自己のキャリアを自らが継続的にデザインし続けていく能力を育成することが求められています。

本学では充実した教養教育・専門教育のカリキュラムと、様々な就職支援・資格試験対策などのプログラムを中心としたキャリアサポートとを、キャリアフォリオ(学習履歴の記録)を活用して有機的に結びつける独自のキャリアデザイン教育システムを構築し、卒業後の自分、10年後・20年後の自分を思い描いていただき、その実現に向けて4年間しっかりとアシストする取組を始めました。



※「キャリアデザイン教育」とは…望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育のことです。

学生一人ひとりが、大学での学習内容や様々な活動を記録する「キャリアフォリオ(学習履歴の記録)」を作り、自分の将来のキャリアをデザインする際のツールとして活用します。

高大連携による取組が進展!!

■ 高大連携事業に関する協定を締結

熊本県立大学では、これまでも入試広報・地域貢献の観点から、高校生向け公開講座の開催や高等学校への出張講義の実施など、高等学校との連携を進めてきました。

平成19年3月30日には、高校生への大学の高度な教育・研究に触れる機会や学部選択に関する情報の提供、大学教育の充実・発展、また、高校生の視野を広め、将来の進路についての関心と意欲を高めることを目的として、熊本県教育委員会との間に、「高大連携事業に関する協定」を締結しました。

今後は、高等学校との連携・交流をさらに深め、相互の教育効果を高めるための取組を進めていくこととしています。

■ モデル校との取組の紹介

「高大連携事業に関する協定」に基づき、8月には県立高校5校を高大連携モデル校として選定しました。ここでは、モデル校との取組についてご紹介します。

■ 第一高等学校

文学部を窓口として、高校の国語科教育に大学での最新の研究成果を組み込んでいく取組を研究しています。具体的には、教材研究にかかる教員間の意見交換、高校の国語科の授業への大学教員の協力などです。今年度は、1年生の古文教材『徒然草』のまとめ段階で、7月に授業の一環として、大学での文学研究・語学研究成果を2回にわたり講義しました。



文学部 半藤教授による出張講義（第一高校）

■ 熊本北高等学校

環境共生学部を窓口として、これまでに森林生態や森林・木材の利用をテーマとしてSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)に取り組んでいます。この取組をさらに進め、森林生態、樹木の成分とその利用、木材の構造物への適用などの大学における研究と高校の理科教育との連携、食の安全などに関する研究と家庭科教育との連携等に関する方策を探るべく、教員間の交流、学生・生徒間の交流などを積極的に推進することとしています。

■ 東稜高等学校

総合管理学部を窓口として、東稜高校が取り組む主体的に高校生が進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育と本学が取り組むキャリアデザイン教育の取組を中心に教員間の交流、学生・生徒間の交流、また、地理的に近い点を利用して高校生が本学に出向き通常の講義を体験受講するなどの取組を行っています。

■ 熊本農業高等学校

環境共生学部を窓口として、農産物の生産をはじめ、「食と農」に関わるものづくりを主要なテーマとして、お互いの持つ施設・設備を有効に利用しつつ、教員間や学生・生徒間の人的な交流を積極的に行い、専門高校と大学の連携のあり方について検討を行っています。11月20日には、学生食堂において熊本農業高校から食材を提供いただき、「食の高大連携」をテーマに「食育の日」の取組を実施しました。

■ 水俣高等学校

総合管理学部を窓口として、大学から地理的に離れ、大学生との交流の機会が少ない水俣高校の生徒と水俣高校出身の本学在学学生との交流の機会を設けました（10月15日）。また、地理的条件をカバーするために大学の講義の高校への提供や学生・生徒間の交流にTV会議システムなどIT活用の可能性についての検討を行う予定です。



総合管理学部 石橋教授「アメリカの大学・日本の大学ー総合管理学部がめざすもの」

高大連携 “SUMMER COLLEGE” 開催

8月4日、5日の2日間、創立60周年記念事業の一つとして、高大連携“SUMMER COLLEGE”（後援：熊本県、熊本県教育委員会）を開催しました。

“SUMMER COLLEGE”は、高校生等が大学の教育・研究に触れる機会として、各学部から多種多様な42講座を準備し、県内外から約500人の方が参加しました。

参加者からは、「大学の授業に触れてみて、大学に興味を持つことが出来た」「大学でもっと深く勉強したい」などの声が聞かれ、非常に好評でした。

文学部

新カリキュラムがスタート!

文学部では「地域」を学習の場とし、日本語の「読書力」と英語の「運用力」を高め、広く人間文化を学ぶ——この理念のもとに平成20年度から新カリキュラムがスタートします。日本語日本文学科に「地域文化コース」「人文学コース」、英語英米文学科には「英語教育コース」「日本語教育コース」「人文学コース」を開設します。

大学院文学研究科

博士後期課程新設

大学院文学研究科日本語日本文学専攻には博士後期課程を新設します。これまでの修士課程は博士前期課程となり、5年間で日本語・日本文学の研究者を養成します。今後は英語英米文学専攻にも博士課程を設置すべく準備を進めています。

入試制度も専門職業人特別選抜・シニア特別選抜を設けて、大学院を広く社会に開きました。中学・高等学校の教員の方々や探究心旺盛なシニアの方々の「学び」の場となりますように、昼夜開講ですので、夜間の授業で学位が取得できます。

環境共生学部

環境共生学部の学科再編

環境共生学部は、私たちの生活と自然とが共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上をめざすことを理念に平成11年4月に生活科学部から改組され、この9年間に渡って教育・研究を行ってきました。来年3月には、初の博士（環境共生学）が誕生する予定です。学部・大学院の完成を機会に組織や定員の見直しを行った結果、平成20年度からこれまでの1学科3専攻を次のような3学科制へ、また環境資源学科の定員20名を30名に増やすことにしました。

環境共生学部においては、循環型社会、環境保全、自然に優しい居住環境、食の安全・安心や健康増進などの充実した教育・研究により、地域への貢献とネットワークづくりや情報発信にこれまで以上に頑張っていきたいと考えています。

新しい組織体制

環境共生学部	環境資源学科(定員)	30名
	居住環境学科(定員)	40名
	食健康科学科(定員)	40名

総合管理学部

KUMAJEKT2007
はじめました。

「人吉球磨地域を持続可能なコミュニティにするための政策を提言してください」

球磨地域振興局から依頼があったと仮定し、そのための調査研究を行うプロジェクトです。

学生が社会に出ると、「自ら問題を見つけ出し、解決方法を考え、それをプレゼンテーションし、自ら実施する能力」が求められます。「プロジェクトを通して、問題解決のための総合力を身につけてもらいたい」と、専門分野の異なる教員有志8名が企画しました。参加しても単位はもらえない自主参加プロジェクトにもかかわらず50名を超える応募がありました。現在は、10チームに分かれてプロジェクトに取り組んでいます。

10月8日には球磨村松谷棚田で作業体験をしてグリーンツーリズムの可能性を探り、また、人吉市中心市街地でフィールドワークをおこないました。11、12月にも現地調査をおこない、来年3月には、人吉球磨地域で政策提言報告会を行う予定です。



松谷棚田での作業体験

研究室紹介

総合文化コース

吉井 誠准教授



私の研究室では「第二言語習得」について学びます。人はどのようにして母国語以外の言語を習得していくのか、その過程を探り、習得に影響を与える様々な要因について研究していきます。学習者の視点に立った研究ですが、どのようにしたらより効果的に学習できるかという言語教育・教授法につながる研究です。私は語彙習得に特に興味があり、学習者の語彙習得のプロセスを記録・分析することを試んでいます。昨年から今年の9月まで、英国ウエルズ大スウォンジー校において1年間の在外研究の機会が与えられ、ここでは、コンピュータによるシミュレーションを通して語彙習得プロセスを検証する方法について研究してきました。

「第二言語習得」は、まだ誕生から日が浅く、言語学、心理学、教育学、社会学など、様々な分野からの助けを借りながら成長を続けています。その一端を担う者として、学生と共にこれからの研究を積み重ねていければと望んでいます。



スウォンジー校の言語学クラスにて

研究室紹介

福祉住環境計画学研究室

村上 良知教授



学部名の環境共生は、人と自然の共生だけでなく、多様な人々が支え合い安心して暮らせる社会的共生の概念を含んでいます。この考え方は、すべての人が暮らしやすい社会を目指す「ユニバーサルデザイン（UD）」と重なっています。

本研究室では「共生社会」をつくるために、福祉と居住環境にまたがる分野で教育研究をおこなっています。ひとつは、我々の住まいや住環境のUD視点での見直しです。住環境は、これまで壮健な若者を標準につくられてきたため、高齢者や障がい者などにはバリアに満ちています。現在、高齢期にも住み続けられる長寿命の住宅、公共施設のUD水準評価、観光資源のUDのあり方などの研究に取り組んでいます。

さらに、社会福祉施設の計画技術の教育研究も重要です。社会と福祉制度の変化に伴い、近年、福祉施設は大きく変化しています。その計画のために、声なき声を汲み上げて、人間性や人権を尊重した施設計画の研究に取り組んでいます。

研究室紹介

情報管理コース

金井 貴准教授



近年企業や官公庁においてもインターネットはなくてはならないものとなっています。インターネットを利用することで高速かつ広範囲に情報を伝えることが可能となりましたが、その一方で機密情報やプライベートな情報が流出してしまうという問題が頻発しており、社会問題となっています。こうした情報ネットワーク社会の問題に対処するため、私の研究室では情報セキュリティという分野について研究・教育を行っています。

情報セキュリティについて考えるためには、インターネットの技術的知識だけでなくその技術を利用する人々がどのように情報ネットワークを利用しているのかについて知っておく必要があります。特に情報漏洩の問題では、従業員等による機密情報や個人情報情報の取り扱い方によりリスク要因が異なってきます。私の研究室では人や組織といった観点も考慮した情報セキュリティの分析を学べるよう、情報技術を学ぶと共に情報技術と社会の関係についても考える教育を行っています。

本学では、地域との連携・交流により地域が抱える課題の解決や研究成果を地域に還元するための取組を積極的に行っています。その中核を担うのが地域連携センターです。センターでは地域のニーズと大学のシーズを結びつけ、地域が抱える課題を解決するためのコーディネートを行っています。

包括協定先との連携による取組

昨年度に整備した包括協定制度に基づき、本学と自治体、企業等が連携協力して、地域の課題解決に向けた連携方策を検討・実施しています。

その中から、具体的な取組についてご紹介します。

地域環境フォーラム「地域環境の創生」を開催

10月21日(日)、本学大講義室を会場に、熊本県立大学地域環境フォーラム『地域環境の創生』を開催しました。

このフォーラムは、包括協定に基づき大学と地域が連携して行っている各種の取組について、「地域環境の創生」をテーマに様々な角度から検証を行い、地域環境に対する大学と地域の連携のあり方について考えることを目的として開催したものです。当日は、学生や自治体職員の方を中心に150人の方が参加されました。

フォーラムでは、本学客員教授の葉祥栄先生から、「ローエミッション建築と地域環境」というタイトルで基調講演がありました。



地域環境フォーラム

講演では、小国ドームのような大規模な木材建築に関する許可を得るまでのご苦労や、木材による建築では重要な部分の木材を抜いても周りの木材が頑張るため部分崩壊が全体崩壊に至らないこと、このことは地域社会のコミュニティにも

言えるのではないかと、などの興味深いお話がありました。

続いて、本学が包括協定に基づき連携している団体の方々をパネリストとして、「まち・ひと・くらしー地域環境創生」をテーマにパネルディスカッションが行われました。水俣市からは水俣エコタウンに関する取組について、山鹿市の平小城活性化協議会からは環境を守るための取組について、和水町のなごみの里協議会からは熊本県立大学、富士電機システムズ、和水町と地元の連携により行っている里山再生活動の様子について、富

士電機システムズからは富士電機が社会的に存在価値の高い企業グループを目指した各種の取組を行っていることなどが述べられました。本学からは、現在作成中の環境白書に関することや包括協定に基づく取組について紹介がありました。

天草プロジェクト

本学が包括協定を交わしている天草市を中心とした天草地域を対象に、大学院3研究科（文学研究科・環境共生学研究科・アドミニストレーション研究科）が連携・共同して学際型の研究を行う「天草プロジェクト」を進めています。



天草プロジェクトによる現地視察

9月11日～12日、「研究宝島・天草訪問と地域交流の集い」をテーマとして、本学の11名の教職員が天草を訪問して、天草の文化や自然、地域振興に関する様々な取組を視察しました。また、11日の夜には、地域の方々に対して天草における本学教員の研究成果について報告会を行いました。

宇城市からの受託研究

宇城市との包括協定に基づいて、文化財に関する調査研究を進めています。同市不知火町松合地区では、環境共生学部の教員と学生が同地区に残る土蔵白壁建造物群について伝統的建造物群保存地区指定に係る予備調査を8月～9月に実施しました。また、同市三角町にある国指定史跡の小田良古墳について、文学部の教員と学生が史跡の保護及び活用方策についての調査を9月に実施し、現在具体的な方策提言を検討しています。

Topic

日経「大学の地域貢献度ランキング」調査で本学が全国10位

日本経済新聞社が平成19年6月に全国の680の大学を対象に行った「大学の地域貢献度ランキング」調査において、熊本県立大学が全国の国公私立大学中10位という結果が発表されました。

調査に当たっては、「大学の組織・制度」、「学生」、「企業・団体・行政」、「住民・団体」などの各項目に関して、それぞれの大学の地域貢献活動が評価されました。このランキングにおいて、熊本県立大学はインターンシップなどの「学生」の項目や、地域向けの公開講座などの「住民・団体」の項目で高い評価を受け、全国10位（昨年度は13位）となりました。また、公立大学では全国2位（昨年同様）、熊本県内の大学では1位（昨年同様）となっています。

お知らせ

平成20年度(前期・通年)授業公開講座受講生募集

熊本県立大学では、地域の方が大学の授業を学生と一緒に受講する授業公開講座を実施しています。

来年2月、平成20年度の前期講座（4月から7月まで）と通年講座（4月から平成21年1月まで）の募集を行います。受講料は1講座につき、前期講座は5千円、通年講座は1万円となります。学生を除く18歳以上の方でしたら、どなたでも申込可能です。

授業の内容や申込については、2月に大学や県の機関、公民館等にて配布予定の募集案内をご覧ください。また、大学ホームページからも2月以降ダウンロード可能です。

◆問い合わせ先：地域連携センター TEL 096-383-2929(内線500)

国際交流

熊本で
世界と向き合う

熊本県立大学は、「地域に生き、世界に伸びる」のスローガンのもと、「国際性の推進」を3大理念の一つに掲げていますが、その理念をより具体化していくための「国際交流ビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、本学の規模や特性を生かした国際交流活動を推進するため、「アジア・太平洋地域への指向」と「多文化共生社会への貢献」の2つのキーワードを軸に、「学生」「学術研究」「地域」のそれぞれの視点から全学的に国際交流の気運を高めていこうというねらいがあります。特に、学生をめぐる国際化については、協定校への留学や研修などで世界にはばたこうとする学生を応援するのはもちろんのこと、教育カリキュラムや各種国際交流事業を通じて、より多くの学生が「熊本で世界と向き合う」ための取組を推進していきます。



▲サークルとの交流

アメリカ、韓国の協定校から短期研修団が来学しました！

本学の協定校である米国・モンタナ州立大学ピリングス校と姉妹提携校である韓国・祥明(サンミョン)大専科からの短期研修団学生が、5月から7月にかけて相次いで来学しました。約10日間の滞在中は、本学学生宅などの一般家庭にホームステイをしながら本学に通い、日本語等の授業や日本文化体験、サークル交流プログラムなどに参加しました。

祥明大専科70周年記念事業に米澤学長が出席

去る2007年5月14日～17日、本学の姉妹提携校である韓国・祥明大専科のソウル校において、開学70周年記念式典が催され、米澤学長が招待されました。

式典は「教育と国際交流」というテーマで祥明大専科の他の協定校を含めて意見交換があり、米澤学長からは、本学の国際交流ビジョンとこれまでの祥明大専科との交流実績について発表が行われ、今後の2大学間の交流発展のきっかけとなる式典となりました。

祥明大専科 徐総長と米澤学長▶



▲交換留学生による韓国の食文化発表



▲オンマソンマツ定食

食の国際交流

去る10月19日(金)に「食の国際交流」と題して、本学の姉妹提携校である韓国・祥明大専科からの交換留学生2名がレシピを作成した韓国の家庭料理「オンマソンマツ(お母さんの味)定食」を学食にて提供しました。同時に交換留学生によるメニュー紹介や韓国の食文化についてのプレゼンテーションが行われ、学食は多くの学生や教職員で賑わいました。

帰国留学生報告

祥明大専科への交換留学生2人とモンタナ州立大学ピリングス校への交換留学生3人が、約1年間の留学を終え、それぞれ3月と5月に帰国しました。

去る7月12日には、留学報告会を開催し、体験談を披露してもらいましたが、「思ったように言葉が出てこず、落ち込んだ」「より良いコミュニケーションを築こうと、とことん話し合った」「最初は授業についていけなかった」など様々な苦労や困難を乗り越え、最終的には「かけがえのない体験ができた」「多くの友人を得た」「帰国するのがつらかった」と、留学を経て飛躍的に成長した姿をうかがい知ることができました。

なお、大学ホームページの「国際交流」のページをリニューアルしました。帰国留学生の報告書も掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

「国際交流」ホームページ http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2006/kokusai/kokusai_menu.htm

留学生による韓国語・中国語講座

本学の姉妹提携校である祥明大専科からの交換留学生及び本学の私費外国人留学生による韓国語及び中国語の講座を開講しています。本格的な講座というわけではありませんが、どなたでも参加できます。(無料)

◆問い合わせ先：学生支援課

TEL 096-383-2929(内線 205)

●韓国語講座(中級)

日時：平成19年12月20日までの毎週木曜日
3限(12:50～14:20)
場所：外国語教育センター棟 202

●韓国語講座(初級)

日時：平成20年1月15日までの毎週火曜日
4限(14:30～16:00)
場所：外国語教育センター棟 203

●中国語講座(中級)

日時：平成20年1月17日までの毎週木曜日
4限(14:30～16:00)
場所：外国語教育センター棟 201

●中国語講座(初級)

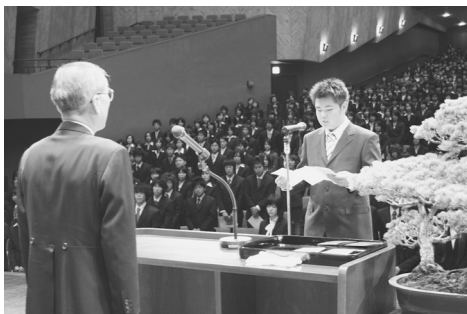
日時：平成20年1月17日までの毎週木曜日
4限(14:30～16:00)
場所：外国語教育センター棟 204

■平成19年度入学式

(4/7)

平成19年度入学式が熊本県立劇場で行われ、学部生499人及び大学院生57人の計556人が入学しました。

新入生を代表して、総合管理理学部の満永幸太郎さんが「県立大学生としての誇りと自分を忘れず、自ら学ぶ意欲を失うことなく、視野を広げ、自分の可能性を信じて、粉骨砕身、努力することをここに誓います。」と宣誓しました。



平成19年度入学式

式典において、吹奏楽部による演奏、合唱部による大学歌「宙へ」の斉唱が行われたほか、今年度から受付横においてマンドリン部と箏曲部による生演奏が行われました。式典後は、新入生の保護者を対象とした「キャンパス見

学会」を開催しました。

これは、保護者の皆様にも本学の教育内容や教育環境にふれていただき、これからの大学の様々な活動への理解を深めていただくことと企画したもので、当日は約400人の保護者の方にご参加いただきました。

■平成18年度後期成績優秀者表彰式開催

(5/31)

成績優秀者の表彰制度は、学業が優秀な学生を表彰し、学生全体の勉学への意欲を喚起することを目的として実施しているものです。表彰式は、2～4年合同で行われ、文学部10人、環境共生学部13人、総合管理理学部21人に対して、米澤学長から表彰状と記念品が授与されました。

今回の表彰者のうちの1人が、初めて学長賞の要件(4学期連続GPA4.0以上)を満たしました。学長賞の表彰については、卒業式時に実施する予定です。

■「学生の祭典、響」 本学学生が大活躍!

(6/16)

熊本県立劇場において、高等教育コンソーシアム熊本一



書道部による「書のパフォーマンス」

周年記念事業が行われ、第2部の「学生の祭典、響」には、県内13の高等教育機関(大学、短大、高专)から323人の学生が参加し、オーケストラ、ダンス、ジャズ演奏など様々なパフォーマンスが展開されました。本学からは書道部が出演し、尚絅大学書道部や世継太鼓の皆さんとともに「書のパフォーマンス」を好演しました。また、展示会場では、書道部の書の展示に加え、ダイビング部が海中写真の展示を行いました。

■第1回食育標語コンテスト受賞作品決定

(6/19)

6月の食育月間にあわせ、本学においても「食育の日」をはじめ様々な食育に関する取組を行いました。その一環

として、「第1回熊本県立大学食育標語コンテスト」を実施しました。応募者数28人、応募総数69作品の中から、投票で審査を行った結果、総合管理理学部2年田中知萌さんの作品「学と食 両立させて健康大生」が最優秀賞に輝きました。



最優秀賞受賞者

本コンテストで受賞された作品は、今年度熊本県立大学が行う「くまもとさんち(産地)の食育ビジョン」推進に係る様々な取組において、活用させていただきます。

■証明書交付機導入

(7/2)

7月から、「在学証明書」「成績証明書」「卒業(修了)見込証明書」を自動発行できる証明書交付機を、本部棟1階ロビーと教務入試課内の2カ所に設置しました。在学生の皆さんは、証明書交付機に必要な事項を入力することにより、これまで2日間かかっていた証明書の交付を、即時に受け

ることができず。なお、証明書交付機を利用するには、「学生証」が必要です。

■オープンキャンパス開催

(7/29)

昨年度に引き続き、約2300名の方々にご参加いただき、非常に盛況でした。

今年度は特に、参加者がより具体的に大学生活をイメージできるように、在学生による学部・学科の紹介や相談コーナーを設け、参加者が本学の学生と触れあう機会をこれまで以上に充実させました。

また、今年度は、本学の環境への取組をアピールするため、参加者全員に本学オリジナルのエコバッグを配布しました。



キャンパス見学(構造実験棟)

■客員教授に3氏就任

(8/1)

本学における教育研究の充実と大学の活性化を図ることを目的に、平成19年度から客員教授制度を整備し、8月1日付けで次の3氏に客員教授を委嘱しました。(任期：平成20年3月31日まで)

蒲島 郁夫氏(60)

東京大学法学部教授

宮崎 暢俊氏(66)

阿蘇郡小国町前町長

葉 祥栄氏(67)

建築家

■「動画で見る熊本県立大学」がスタート

(9/1)

「大学案内ビデオ」や「シンポジウム」の映像をインターネットでご覧いただける動画配信サービスを9月から開始しました。

動画配信では、文字だけでは伝えられなかった、生き生きとした元気で明るい学生の姿などを、インターネットを通じていつでもご覧いただけます。是非ご覧ください。

「動画で見る熊本県立大学」アドレス <http://movie.pu-kumamoto.ac.jp/>

■プレエントランス講座

(11/10)

環境共生学部(環境資源学科・居住環境学科)及び総合管理学部の自己推薦型入試合格者を対象とするプレエントランス講座(入学前学習支援)を実施しました。この講座は、早期に入学が決定する高校生等に対し、入学時までの学習意欲の継続及びさらなる学力向上のため、入学前までの学習を支援するもので、学科ごとに特色あるプログラムを組んで実施します。

今後は、全学部で推薦入試合格者も含め、講座等の実施や個別の学習指導など、充実した学習支援を行ってまいります。

■白亜祭開催

(11/10~11)

恒例の学園祭第43回白亜祭「創造く騒々」を開催しました。

大学創立60周年を迎える節目の年に新たな歴史を創造していこうという意味を込めた「創造く騒々」のテーマのもとに、ものまねでお馴染みの「ホリ」によるお笑いライブをはじめ、恒例のパザール展示、各サークルによるステージなどの人気企画から「模擬裁判体験!裁判員制度」と高校生を対象とした「集まれ高校生!オープンキャンパス学祭編」などの新企画で、会場は騒々しいくらい賑やかな雰囲気でした。

■伊東豊雄講演会開催

(11/23)

世界的な建築家で、くまもとアートポリスコミッションを務められる伊東豊雄氏を迎え、「建築が変わる」と題した公開講演会を開催しました。

21世紀に入って変わりつつある建築、さらに今後の建築の行方についての熱意のこもった講演に、多くの聴衆が真剣に耳を傾けました。本学居住環境学専攻の学生をはじめ、建築を学ぶ他大学の学生、建築を学ぼうとする高校生には、世界の第一線での活動を身近に感じることのできる貴重な機会となりました。

★大学に行ってみよう!

プロジェクト

NHK熊本放送局の番組「くまもとの風」において、県内の各大学の学生が自主製作VTRで大学のPRを行います。

大学の新しい風をテーマに、本学は総合管理学部の津曲ゼミの学生が参加予定で、風行動とし、県大の「活発さ」をもっと多くの人に伝えるべく製作中です。ぜひ、ご覧ください。

▼放送日時：12月21日(金)

20時(予定)

▼放送局：NHK総合テレビ くまもとの「風」

★授業評価アンケート集計結果

本学では、原則として受講者が6人以上のすべての授業について学生による授業評価アンケートを行っています。19年度前期の授業については、7月2日から8月10日までの間に、延べ391の授業で16,456枚のアンケートが回収されました。「総合的に判断して、この授業に満足できましたか」という問いに対しては、そう思う、どちらかというと思うという回答が全体の84%を占めています。

アンケートの集計結果は、大学ホームページの「教務入試課からのお知らせ」のページに掲載しています。

◆問い合わせ先：教務入試課(内線218)

★セクシュアル・ハラスメントに関するアンケート調査結果

人権委員会では、新入生を除く本学の学生及び教職員を対象に「セクシュアル・ハラスメントに関するアンケート」調査を実施しました。

集計結果等については、大学ホームページの「お知らせ・議事録(学内専用)」のページに掲載しています。

セクハラ等でお悩みの方は、相談員又は保健師(保健室：内線216)までご相談ください。

◆問い合わせ先：総務課(内線255)

TEL 096-383-2929(代表)

Shalom



こんにちは、
Shalom (シャ
ローム) です。
Shalomは、現

在部員15名で活動している、
ライブイベント企画・運営を
主な活動とするサークルです。

九州を拠点として活動して

いるアーティストで、自分たちが「この人を観て
ほしい・聴いてほしい」と思う人たちに自ら声を
かけ、年に2、3回ライブイベントを開催しています。
コンセプトは「オールジャンル」、お客さんが
Shalomに足を運ぶことで、普段聴かないような
ジャンルの音楽に触れて、新しい音楽を楽しんで
もらいたいと考えています。

9月に開催した「Shalom#30」では、司会を
熊本で活躍するタレントさんにお願したり、
ShalomオリジナルCDを作成・配布し、大好評
でした。

回数を重ねるごとに企画内容を工夫し、来てく
ださったお客さんが、音楽を聴くだけでなく、参
加して楽しめる
ようにとがん
ばっています。

これからも沢
山の人に色んな
音楽を伝え、熊
本の音楽をより
盛り上げていき
たいと考えてい
ます。



▲Shalom#30

総合管理学部
総合管理学科 3年

部長 児玉 みなみさん

女子バスケットボール部



こんにちは、
女子バスケッ
トボール部で
す。私たち女子

バスケットボール部は、週に
3回、第二体育館アリーナで
活動しています。

活動は、年に5回ほど大き

な大会があるので、主にそれに向けた練習を行っ
ています。また、学校での活動以外にも、他大学
との合同練習や長期休暇にはキャンプに行くなど、
幅広い活動を行っています。

大会では、県外に行くことが多いので、移動や
宿泊地の決定など計画するのが大変ですが、試合
と旅行を両方楽しむことができるので、とても充
実した内容となっております。熊本県内各地で行わ
れる県リーグという大会では、ここ3年間負けな
しという好成績を残しており、楽しみながらも勝
負に関してはこだわりを持って戦っています。

部員12名と決して多い数ではありませんが、活
動の内容と仲のよ
さ、そして楽し
さはこの部活・
サークルにも負
けてないと思いま
す。

バスケットをし
たくなったら体育
館へどうぞ！



▲女子バスケット部

総合管理学部
総合管理学科 3年

部長 森下 ユキさん



サークル ニュース

＊軟式野球部 全国大会出場

去る6月3日に「九州地区軟式野球選手権大会」決勝トーナメントが錦球場（球磨郡錦町）で行われ、熊本県立大学軟式野球部は、第一工業大学（鹿児島県）を9-6で破り、第30回全日本大学軟式野球選手権大会への出場を決めました。軟式野球部の全国大会への出場は、2年連続で6回目となります。8月6日に行われた全国大会では、初戦で創価大学と対戦し、9回まで4-4の同点で、延長特別ルールの無死満塁からの攻防でしたが、残念ながら敗退しました。
 ■試合結果 熊本県立大学 6-9 創価大学
 選手は全力を出し切ることができた良い試合だったと語っていました。多くの皆様から暖かい声援をいただき、ありがとうございました。

＊硬式テニス部 全国大会出場

硬式テニス部の井上宙さん（総合管理学部4年）が8月6日から18日に行われた九州学生春季テニス選手権大会で3位入賞を果たし、全国大会への出場権を獲得しました。全国大会では、惜しくも初戦敗退となりましたが、井上さんは、4年間の練習の成果を十分に発揮できたと語っていました。

＊吹奏楽部 銀賞受賞

7月8日に熊本県立劇場で「全日本吹奏楽コンクール熊本県大会」が行われ、本学吹奏楽部は、課題曲「V マーチ「ブルースカイ」と自由曲「THE LEGEND OF ZORRO」を演奏し、銀賞と審査員特別賞をいただきました。

「中国人のための日本語教室」

文学部 日本語日本文学科 4年

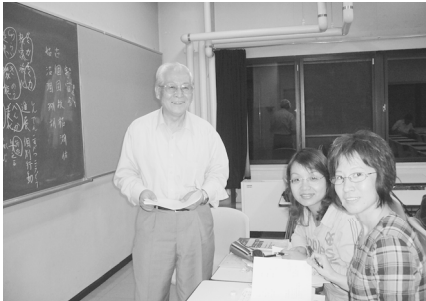
榎原 育美さん



私は国際倶楽部の活動の一環として、「華友会」という団体のお手伝いをしています。「華友会」とは中国帰国者支援団体で、最近では帰国者だけでなく国際結婚や仕事の関係で来日した方への日本語教室や中国人・韓国人中学生の教科指導も行っています。これらは毎週木曜日の夜、大学の教室を借りて行うのですが、他にも2月には中国旧正月の「春節」パーティーで餃子と一緒に作ったり、キャンプやみかん狩りに行ったり、手料理を持ち寄ってクリスマス会をしたり...と日本語教室以外にも活動しています。

普段何気なく使っている日本語も、教えるとなると本当に難しいのですが、この活動を通して、日本語の奥深さや教えることの楽しさを知ることができましたし、何より、生徒さんがどんどん上手になっていく姿を見るのは本当に嬉しいです。

最近「多文化共生」という言葉をよく耳にしますが、日本に住む外国人の方が抱える不安や問題はまだまだたくさんあると思います。私たちはその不安や問題をひとつでも多く解決できるようにこれからも日本語教室を中心に活動をすすめていきたいと思っています。



シエルタープロジェクト2007

環境共生学部 環境共生学科
居住環境学専攻 3年

野田 佳央さん



シエルタープロジェクト2007とは、居住環境学専攻の学生23人による自主研究です。最近私たちの身近なところで大きな災害が起こっています。そこで、災害時における避難所の暮らしの中でプライバシーを守りコミュニケーションをとるための「シエルター」の製作を通して、人々の防災意識を高めることができないかと、この活動を始めました。一方で、在学中に何かを残したい、という気持ちで私やみんなの中にあつたのがそもそものきっかけでもあります。

この活動を通して、私たち自身も普段考えることのない「災害」について考える機会を得ることができました。そして、学んだこと、感じたことを情報発信することで、熊本の人々の防災意識の向上につながればと思います。9月9日にシンポジウムを、11月10日、11日には作品・成果物の展示会及び発表会を開催しました。

このようなイベントを開催したことは今までなかったので、最初はすごく戸惑いましたが、先生方や同じ専攻の学生、多くの方々にご協力いただき、無事開催することができました。また、この活動は神奈川大学の学生も一緒に行ってきた活動でもあり、県外の、それも関東圏という遠方の学生と交流できたことは、私たちにとつととても有意義なものになりました。この活動で得たものをこれからの学生生活だけでなく、普段の生活の中でも活かしていきたいと思っています。



学生News

『二科展』入選

第92回二科展で、総合管理学部総合管理学科2年 尾池絵梨子さんが初入選を果たしました。今回、20歳以下の全国での入選者は3人で、その中の1人に尾池さんが選ばれました。今後の活躍を期待します。



尾池 絵梨子さんの作品「想」

■総合管理学部の学生グループ(飯村研究室)の研究が学会で奨励賞を受賞

昨年度熊本県立大学後援会の学生共同自主研究推進事業による助成を受けた、総合管理学部の学生グループ(指導教員:飯村伊智郎准教授)による「二次元バーコードを用いた備品等管理システムの構築に関する研究」が、教育システム情報学会関西支部第21回学生によるコンピュータ利用研究発表会において、奨励賞を受賞しました。

受賞者:吉田賢治さん、石塚さおりさん、

上野美里さん、緒方麻未さん、

鶴川翔太さん、平島祐子さん、

松永知子さん

就職支援 ～キャリアデザインのススメ～

■ 採用の動向

平成16年度から景気回復に伴い採用（雇用）も回復傾向になり、2008年3月卒を対象とした求人総数は、バブル期を上回り、過去最大の93.3万人に。求人倍率は、2.14倍と、16年ぶりに2倍を超え、採用環境は「売り手市場」になっています。

しかしながら、業種別の求人状況を見てみると、全業種で求人数は昨年度より増加しているものの、求人倍率は「流通業」での伸びが最も高く7.31倍、次いで「製造業」で2.64倍、一方、金融業では0.39倍と、業種間での求人倍率の差は広がっており、業種によっては依然厳しい状況にあります。

また、大学への求人についても年々増加傾向にありますが、関東・関西からの求人票の増加率に比べて県内企業の増加率は低く、さらに、熊本県の大学新規卒業者の職業紹介状況でも、全体の求人倍率が5.5倍に対して県内企業の求人倍率は1.11倍と低い状況にあり、地元での就職は、業種によっては依然厳しい状況にあります。

このような状況の中、共通していることは、企業は「厳選採用」の姿勢を崩していないということです。よって、学生側も内定を複数貰う学生と内定をなかなか貰えない学生とに二極化の傾向が見られます。

企業の採用活動も年々早まっていますので、学生の皆さん一人ひとりが自分の将来（キャリア）を考えて大学生活を過ごし、早めに就職活動へ向けた取組を行うことが求められます。

■ 10月以降の就職支援

3年次就職支援イベント

10月 3年次就職ガイダンス

本格的に始まる就職活動を前に、就職活動の自覚と心構えや就職活動の進め方について説明します。

10月～平成20年1月（毎週火曜4限目） 就職セミナー

就職活動を行うための準備として、①自己分析、②業種・業界研究、③筆記試験対策、④履歴書・エントリーシート対策、⑤面接・マナー対策などについて説明します。

10月 県大卒業生による就活応援セミナー

一昨年度、結成された「OB・OG就職支援会」が本学学生への就職支援事業として行うもので、厳しい就職環境を戦うために、自分の戦略を立てるスキルを提供します。

11月 やりたい事発見セミナー

リクルートの適職診断プログラムR-CAP受検者を対象としたセミナーです。

2月 就職セミナー（週間）

就職活動の直前対策として、1週間集中して就職セミナーを実施します。就職セミナーのなかでは、模擬グループ面接、学内企業セミナー、公務員対策、模擬試験などを行います。

12月～2月 福岡地区合同企業説明会

福岡地区で行われる合同企業説明会に、大学からバスを運行します。

その他、社会人を招いての業界セミナー、女性のためのメイクアップ講座、一般教養講座、1・2年生を対象とした就職活動支援セミナーなど、就職支援の各種講座を開講していきます。

※日程、申込み方法等詳細情報については、実施前に学内掲示等でお知らせしますので、各自で掲示を注意してご覧ください。



先輩からの就活アドバイス

総合管理学部 総合管理学科 4年
沓掛 正樹さん
日本銀行(特定職)内定

熊本県立大学において、公共の場で働くことの素晴らしさを学んだ私は、将来必ず「公共に寄与する仕事」に就くことを決意しました。その後の講義や様々な経験の中で、さらに「組織が柔軟性を併せ持つこと」が重要であると考えようになり、

就職活動では前記した2点を重視して活動しました。

これから就職活動を始めるにあたって、皆さんは多くの情報に触れ、それを基に行動していくわけですが、自分の中でこれだけは譲れないという条件を持つことは、非常に有効なことだと思います。それにより、情報を取捨選択することができ、自己分析や企業研究にも応用することができるからです。

就職活動は活動している人の数だけ多分に存在します。目標も進度も他の人と比較しがちですが、真摯に自分と向き合い、将来の自分を思い描きながら、納得のいく就職活動をして下さい。心から応援しています。

就職状況

～先輩の進路、私の進路～

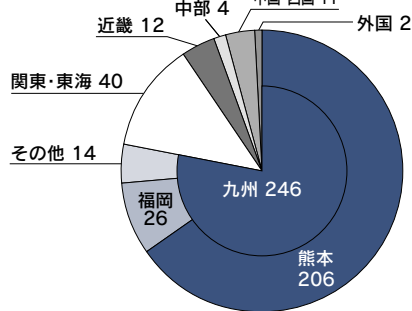
1. 就職状況(過去3年度)

進路状況		平成16年度							平成17年度							平成18年度						
		文学部		環境共生学部			総合管理学部	合	文学部		環境共生学部			総合管理学部	合	文学部		環境共生学部			総合管理学部	合
		日本語日本文学科	英語英米文学科	環境共生学科					日本語日本文学科	英語英米文学科	環境共生学科					日本語日本文学科	英語英米文学科	環境共生学科				
				生態環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専攻	生態環境資源学専攻	居住環境学専攻			食健康環境学専攻	生態環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専攻								
	卒業生総数	37	50	19	36	38	279	459	38	31	24	38	44	283	458	40	45	21	40	43	250	439
1.	就職希望者数	28	34	9	33	33	220	357	22	21	13	29	33	240	358	29	33	12	33	27	220	354
	決定者数	19	23	8	20	32	198	300	18	17	12	25	33	220	325	24	25	11	29	25	201	315
	就職率(%)	67.9	67.6	88.9	60.6	97.0	90.0	84.0	81.8	81.0	92.3	86.2	100	91.7	90.8	82.8	75.8	91.7	87.9	93	91.4	89.0
2.	進学希望者数	1	4	9	3	3	13	33	8	4	7	8	8	5	40	6	4	8	5	12	8	43
	留学・その他	8	12	1	0	2	46	69	8	6	4	1	3	38	60	5	8	1	2	4	22	42

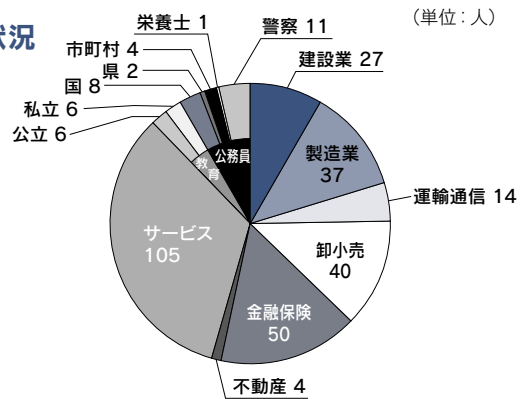
※就職率=決定者数/就職希望者数
 ※各年度3月卒業生数、9月卒業生は含まず

2. 地域別・業種別就職状況(平成18年度卒業生)

地域別就職状況



業種別就職状況



3. 主な就職先一覧(過去5年度のデータより)

文学部

日本語日本文学科

ウルトラハウス、サンカラー、雇用促進事業会、大分キャノンマテリアル、JALスカイ九州、熊本大同青果、鳥居、ファーストリテイリング、メガネの大宝堂、ヨネザワ、ジャパントレーディング、熊本日産自動車、熊本ファミリー銀行、鹿児島銀行、肥後銀行、第一生命、日本生命、ニュースカイホテル、応用地質、熊本赤十字病院、関西語言学院、コースコーポレーション、南京外国語学校、湖東カレッジ教育芸術専門学校、日能研九州、昴、国家・地方公務員 ほか

英語英米文学科

伊藤園、雇用促進事業会、中央出版、メディアプレス、大分合同新聞社、化学及血清療法研究所、再春館製薬所、東京エレクトロン九州、九州産業交通ホールディングス、日本航空インターナショナル、JALスカイ九州、シンガポールエアライン、全日本空輸、近畿日本ツーリスト、読売旅行、鹿児島銀行、熊本ファミリー銀行、肥後銀行、熊本信用金庫、三菱UFJ証券、ニュースカイホテル、肥銀ビジネス開発、英進館、公私立学校教員、地方公務員 ほか

環境共生学部

環境共生学

生態・環境資源学専攻

農業生産法人長生園、国土環境(現 いであ)、新産住拓、尾鷹林業、エーザイ生科研、化学及血清療法研究所、日本リモナイト鉱業、日本新薬、中セキ九州、熊本大同青果、日南農産、興農園、九州サントリープロダクト、熊本ファミリー銀行、三菱証券、環境調査研究所、日建設計、西部環境調査、太平環境科学センター、北九州市環境整備協会、エコープ生活協同組合、野田市電子、同仁グローカル、ニチゴウ、パナファームラボラトリーズ、地方公務員(農学、林学)ほか

居住環境学専攻

アイウッドダイワ、穴吹工務店、アネシス、エスケーホーム、小野建、キューケンホーム、ダイワ建設、タマホーム、レオパレス21、一条工務店、岩永組、興和ホーム、熊本タカスギ、松栄パナホーム、新産住拓、積水ハウス、富坂建設、三機工業、荏原冷熱システム、ユニクロ、サンカラー、タカラスタンダード、ニトリ、福徳不動産、各建築事務所、農山漁村文化協会、地方公務員 ほか

食・健康環境学専攻

石村萬盛堂、オタフクソース、キヨタグループ薩摩ハム、タニシヨウ食品開発研究所、マルキン食品、明治製菓、リョーユーパン、丸王給食、五木食品、エーザイ生科研、化学及血清療法研究所、三和化学研究所、大塚製薬、日清医療食品、西原商会、住商ドラッグストア、フレスコ・エムケイ、イカリ消毒、栄食フードサービス、エコープ生活協同組合、熊本県成人病予防協会、公私立学校教員、地方公務員(県・市町村栄養士、学校栄養職員)、病院栄養士(国立病院、熊本機能病院、託麻台病院) ほか

総合管理学部

総合管理学科

熊本セキスイハイム、新産住拓、レオパレス21、穴吹工務店、積水ハウス、伊藤園、ヒライ、熊本製粉、南九州コーポラボトリング、サントリー、ウルトラハウス、雇用促進事業会、熊本日日新聞社、地域経済センター、化学及血清療法研究所、再春館製薬所、トキワ、金剛、ヤマハ熊本プロダクト、東京エレクトロン九州、九州旅客鉄道、九州産業交通ホールディングス、日本通運、熊本空港ビルディング、全日本空輸、大韓航空、日本航空インターナショナル、NTT西日本、イオン九州、イズミ、トヨタカラー熊本、熊本リコー、コスモス薬品、レイメイ藤井、富田薬品、肥後銀行、熊本ファミリー銀行、熊本信用金庫、熊本第一信用金庫、肥銀ビジネス開発、日興コーポリアル証券、野村證券、RKKコンピュータサービス、富士通南九州システムエンジニアリング、KIS、熊本中央病院、第一生命、明治安田生命、国家・地方公務員 ほか

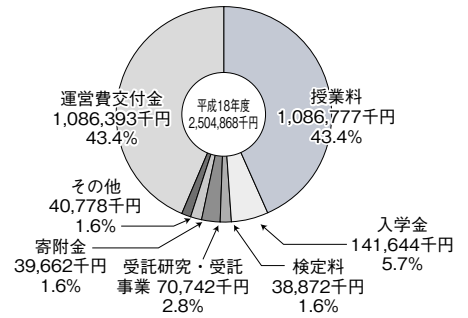
平成18年度事業報告

平成18年4月、熊本県立大学は、公立大学法人熊本県立大学として新たなスタートを切り、設立団体である熊本県が定めた中期目標を受けて、中期計画と平成18年度の年度計画を策定しました。学生、保護者、卒業生及び地域から支持される「満足度の高い大学」づくりに向けて、「教育研究の質の向上」「業務運営の改善・効率化」「財務内容の改善」「自己点検・評価」「情報提供」について179の取組を行うこととしました。中期計画と年度計画を合わせて「もっこすプラン2006」と呼ぶこととし、全教職員に周知するとともに、広く公表して、関係者による共有化と、社会への説明責任を果たしました。「もっこすプラン」の呼称を用い、熊本の大学ならではの独自性ある大学づくりを目指すとともに、定めた目標に「一途に取り組む」姿勢を示しました。このように中期目標及び中期計画の達成に向けた取組の歩を進めた結果、熊本県公立大学法人評価委員会から、「年度計画を順調に実施している」との評価を受けました。平成18年度の主な取組は次のとおりです。

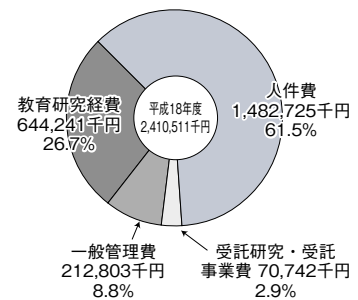
<教育研究の質の向上に関する取組> ※主なものを抜粋

- ・教養教育と専門教育の位置づけの明確化と体系的なカリキュラム検討
- ・ポートフォリオを利用したキャリアデザイン教育の試行
- ・「もやいすと」育成プログラムの推進
- ・大学院教育に関する点検評価の実施
- ・熊本県教育委員会と高大連携に関する協定締結
- ・研究成果の発信に関する枠組み確立
- ・科学研究費補助金申請件数倍増・補助金獲得に向けた組織的支援の推進
- ・地域連携センターの設置、地域連携コーディネーターの配置による地域とのパートナーシップによる大学ならではの地域貢献を実現する制度整備
- ・包括協定制度の創設・7自治体1企業との協定締結による研究活動等の開始
- ・「食の人材育成」・「食の研究開発」・「食育の拠点形成」の3つのアクションからなる『くまもとさんち(産地)の食育ビジョン』の策定
- ・本学の国際交流事業の指針となる「国際交流ビジョン」の策定

【決算】 (H18年度決算：収入)



(H18年度決算：支出)



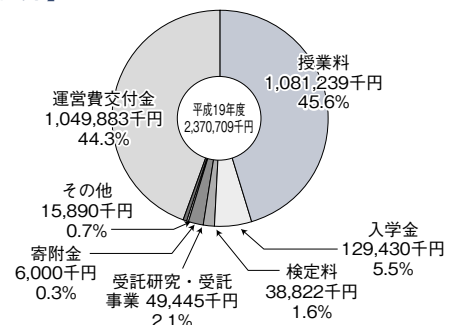
平成19年度事業計画

法人化2年目のアクションプラン「もっこすプラン2007」は、初年度に着手した事業をさらに発展させる179の取組を設定して策定、3月末に熊本県知事に届出を行いました。

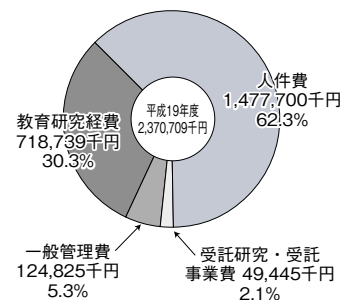
<教育研究の質の向上に関する取組> ※主なものを抜粋

- ・創立60周年記念事業（記念シンポジウムの開催、全学共通テキストの編纂等）
- ・優秀な学生確保のための入試広報の充実・入学選抜制度の改善（保護者を対象としたキャンパス見学会の開催、環境共生学科でAO入試導入、文学部・環境共生学部の入学定員増など）
- ・高校教育と大学教育双方の充実改善に主眼を置いた高大連携の推進。
- ・教養教育と専門教育の位置づけを明確化し、かつキャリアデザイン教育の視点を加味した体系的カリキュラム(20年度実施)の構築
- ・個性ある教育、特に各種達成目標を掲げての「もやいすと」育成プログラムの推進、協力講座開講
- ・研究科長を中心とした大学院教育の見直し、文学研究科博士課程の設置準備
- ・責任ある教育・運営実施のための学科再編
- ・学部横断的研究など学長特別交付金制度の効果的な運用
- ・包括協定を軸とした実践的な地域貢献取組推進
- ・「くまもとさんち(産地)の食育ビジョン」に掲げたプログラムの全学的な推進

【予算】 (H19年度予算：収入)



(H19年度予算：支出)



後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の保護者などを会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

平成19年度後援会評議員会・総会の開催

去る6月23日(土)、学内で評議員会及び総会が開催され、評議員24名、会員164名の方に参加いただきました。今年度は熊本県立大学創立60周年記念シンポジウムと同時開催され、会員の皆様には講演にも参加いただきました。総会では様々な事項について審議され、平成20年度からの会費の改定が承認されました。総会終了後の各学部における学部長をはじめとする教員と会員の方との懇談会では、質疑応答等活発な交流が行われました。

【会費改定について】

一部事業の大学への移管等により後援会の事業支出全体の見直しを行い、来年度以降の入学生を対象として会費額を改定することが承認されました。



平成19年度前期の主な活動支援

1. 就職対策

公務員講座の開催、就職支援事業への助成、TOEIC®受験助成、就職資格取得講座等助成

★就職資格取得講座等助成…就職活動を支援するため、就職活動と関連性が高いと思われる資格取得・講座受講に対して助成金を交付しています。対象となる資格は宅地建物取引主任者、秘書検定、福祉住環境コーディネーター、食生活アドバイザー等さまざまです。TOEIC®や英検等はスコア・級により助成額が異なります。

2. 学生生活支援

- ・43サークル(文化系17、体育系26)へ助成
- ・白亜祭(学園祭)助成
- ・軟式野球部(18名) 全日本大学軟式野球選手権大会出場助成
- ・硬式テニス部(1名) 全日本学生テニス選手権大会出場助成
- ・九州地区大学体育大会(インカレ)参加助成(7サークル85名)
- ・環境共生学部の学生による「環境と食と農を考える意見交換会」に対し、必要経費助成(キャンパスライフ支援事業)

★キャンパスライフ支援事業…学生グループが自主的に取り組む、学生の学習・生活環境の改善や大学生生活の活性化に資すると認められる事業へ助成します。

3. 国際交流推進

- ・協定校へ短期留学・研修参加者やゼミ海外研修参加者(29名)へ助成
- ・海外へ語学留学した学生(7名)へ助成
- ・協定校からの短期研修団と本学生との交流に係る費用の一部負担

★海外留学・研修助成…海外の大学や研修機関等において留学・研修を行う場合、期間に応じて助成金を交付しています。助成を受けるには事前(出発の30日前まで)の申請が必要です。

4. 教育研究助成事業

共同自主研究推進助成事業(10グループ)、現地教育学習バス借上助成

★共同自主研究推進助成事業…学生の自主的な活動に対し必要経費の一部を助成します。毎年度6月に申請、プレゼンテーション、審査により決定します。キャンパスライフ支援事業とは違い、主に年間を通じた活動のものを対象としています。

※途中年次であっても随時入会を受け付けています。後援会事業をご理解いただき、ぜひご加入ください。

事業内容について、詳しくは「後援会のしおり」をご覧ください。

- 熊本県立大学内後援会事務局(内線237)・学生支援課(内線204) ●

TEL 096-383-2929(代表)

月	日	内 容
10月	1日	後期授業開始
	2日	就職ガイダンス(3年次)
	9日	就職セミナー(3年次)(毎週火曜日) (~1月22日)
	10日	インターンシップ発表会
	13日	環境共生学部自己推薦型入試(~14日) 大学院 秋季募集(文学研究科・アド ミニストレーション研究科)入学試験
	21日 26日	地域環境フォーラム OB・OGが贈る就職支援企画「就職 対策ワークショップ」 (~27日)
11月	10日	白巫祭(~11日)
	10日	創立60周年記念シンポジウム 「秋・進歩…大学と活力」
	23日	「建築が変わる一伊東豊雄講演会」
	30日	蒲島郁夫客員教授特別講義
	上旬	ブレイントランス講座(入学前学習支援) (~3月)
12月	2日	特別選抜(推薦、社会人、帰国子女) 入学試験
	4日	就職活動支援セミナー(1年次)
	8日	TOEIC®団体特別試験 第2回
	10日	就職活動支援セミナー(2年次)
	18日	12月期理事長・学長定例記者会見
	24日	冬季休業(~1月9日)
1月	10日	授業再開
	19日	大学入試センター試験(~20日)
	28日	授業料第3期分引落日
	29日	後期試験(~2月8日)
2月	上旬	平成20年度(前期・通年)授業公開講 座受付(~下旬)
	2日	大学院 春季募集(文学研究科・環境 共生学研究科【博士前期課程】・アド ミニストレーション研究科)入学試験
	8日	就職セミナー週間(3年次)(~14日)
	9日	創立60周年記念シンポジウム 「冬・進歩…大学と社会」
	13日	特別選抜(私費外国人留学生)入学試験
	15日	大学院 春季募集(環境共生学研究科 【博士後期課程】)入学試験
	25日	一般選抜前期日程入学試験
	下旬	春季インターンシップ(1~2週間) (~3月)
下旬	祥明大短期留學生派遣(1年間)	
3月	1日	文学研究科博士後期課程開設記念シ ンポジウム
	12日	一般選抜後期日程入学試験
	15日	卒業式(於:熊本県立劇場)
	25日	春季休業(~4月8日)

* 期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板
により確認するか、担当課までお問い合わせください。

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春
山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採った
もの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に
富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学

発行:熊本県立大学
〒862-8502熊本市月出3丁目1番100号
TEL. 096(383) 2929(代) FAX. 096(384) 6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>



古紙配合率100%再生紙を使用しています



この印刷物は大豆インキを使用しています

Information

●創立60周年記念シンポジウム

「冬・進歩…大学と社会」開催

~同時開催!! 各学部フォーラム~

本学では、創立60周年を記念して、「活力ある熊本と人、そ
こに求められる学問」を統一テーマとした記念シンポジウムを
“春夏秋冬…進歩”と名付けこれまで春・夏・秋と3回開催して
きました。いよいよ今回の「冬…進歩」で一連のシンポジウム
が完結します。

今回のシンポジウムは、同窓生をはじめ広く県民の方を主な
対象として、「冬・進歩…大学と社会」というテーマのもと本学
の客員教授(前小国町長)宮崎暢俊様の講演に加え、文学部・
環境共生学部・総合管理学部の各学部フォーラムを開催します。

ぜひ、ご参加ください(参加無料、事前申込不要)。

日時:平成20年2月9日(土) 13:00~

場所:熊本県立大学大講義室ほか

◆問い合わせ先:企画調整室(内線224)

●図書館所蔵の貴重資料を展示公開中

図書館では、現在、創立60周年を記念した企画展示「百科事
典の東西—18世紀 知のあり方を比較する」を来年3月まで行っ
ています。

今回の展示は、18世紀の日本及びフランスで発刊された“2
つの百科事典”—「和漢三才図会」と「Encyclopédie(百
科全書)」を当時の時代背景とともに紹介しています。

展示物の概要は、大学ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

◆問い合わせ先:図書館(内線330)

●文学研究科博士後期課程開設記念シンポジウム

「日本語日本文学研究の未来~博士課程の目指すもの~」開催

本学大学院文学研究科では、平成20年4月、日本語日本文
学専攻修士課程を基盤としつつ、深い学識を具えた研究者の
育成と、高度な専門職業人の養成を目的とした博士後期課程
を新設します。

これを記念し、学内外の研究者によるパネルディスカッショ
ンを行います。学外のパネリストは、揖斐高成蹊大学教授、近
藤泰弘青山学院大学教授と、どちらも著名な研究者です。

ぜひ、ご参加ください。(参加無料、事前申込不要)

日時:平成20年3月1日(土) 13:30~15:30

場所:熊本県立大学大講義室

内容:第1部「研究の醍醐味」

第2部「博士課程の使命と課題」

◆問い合わせ先:文学研究科長 半藤英明(教授)(内線425)

TEL 096-383-2929(代表)

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。いただいた
ご意見は、今後の学報編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502(住所記載不要)

熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行

FAX: 096-384-6765

E-mail: kikaku@pu-kumamoto.ac.jp